

総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 菅 絵里子

○日 時：令和3年10月25日（月） 第5校時（13：00～13：45）
 ○場 所：第4学年1組 教室
 ○学 年：第4学年1組（男子18名 女子19名 計37名）
 ○単元名：自分の命・みんなの命を守り隊 ～大人を動かす防災リーダーを目指そう～

単元の見聞

本校区において防災に関わる取組を行っている人々と関わったり、本校区の安全な箇所や危険な箇所をフィールドワークによって確認したりする活動を通して、昭和地区の防災や命を守るために自分達ができることを考え、考えたことを協働して発信することができる。

児童生徒の実態

- (1) 多くの児童は、自然災害に関心をもち、避難等について真剣に考えようとしている。反面、災害に関する知識等について、自ら調べ、正しく理解している児童は限られている。
- (2) タブレットが一人1台配付されたことで、情報収集に意欲的な児童は多いが、得た情報を比較したり整理したりすることに課題がある。
- (3) 「自ら課題を発見し、探究している」において肯定的回答をした児童は、4月は17名だったが、7月は36名に増加した。探究への意欲は増しているが、課題解決に向けて、グループで考えることに課題がある。

目指す具体の姿＜育成を目指す資質・能力＞

- (1) 知識・技能
 - ①自然災害や防災について理解している。
 - ②自然災害が起きたときの命を守るための行動について理解している。
- (2) 思考力・判断力・表現力
 - ①自ら課題を発見し、課題解決に向けて学習計画を立て、収集した情報を比較したり、分類したり、関係付けたりしながら、分析している。
 - ②発信したい内容を分かりやすく伝えるための方法を考え、理由を明確にし、筋道立てて表現している。
- (3) 主体性・協働する力
 - ①課題の解決に向けて、仲間と協力しながら、進んで学習に取り組んでいる。

本質的な問い

わたしたちは、地域とどう関わり、地域の一員としてどう生きるか。

単元を貫く問い

自然災害とどう向き合い、自分達に何ができるか。

【探究課題 防災に関わる地域の取組とそれに携わる人々】

（単元導入のためのしかけ）

地域の防災士の方から、西日本豪雨の時の教訓から得た課題「大人が動かず、避難する人が少なかった。君たちに力を貸してほしい。大人を動かす防災リーダーになってもらえないか。」を伝えられる。

【第3次】（ 25 時間）

課題 大人を動かすために、自分達に何ができるか。

個別の問い

- ・大人を動かすために何を発信したらよいか。
- ・避難するのに大人が必要だと考えていることは何か。
- ・考えたアイデアは実現できるか。（実現するために何が必要か。）
- ・コロナ禍でも使え、なおかつ効果的な発信方法は何か。

大人（家族、地域の人）

教科等において関連する資質・能力
（単元名）

国語科 2A(1)エ
（調べたことを報告しよう）
道徳科B8
（ありがとうの言葉）

【第2次】（ 15 時間）

課題 土砂災害が起きる前に自分はどう動くか。

個別の問い

- ・わたしたちの町を守るためにできることは何か。
- ・土砂災害が起きたとき、どんな人たちが関わり助けてくれるのか。
- ・土砂災害が起きる前に自分はどんな行動をとらないといけないのか。

西日本豪雨災害時の地域の様子

消防士・防災士・自衛隊

教科等において関連する資質・能力
（単元名）

国語科2A(1)イ
（聞いてほしいな 心に残る出来事）
社会科(3)イ(ア)
（自然災害からくらしを守る）
道徳科 C16
（わたしたちのじまん八寸）

【第1次】（ 15 時間）

課題 災害って何だろう。 自分達の町は安全なのか。

個別の問い

- ・災害には、どのようなものがあるのか。
- ・災害から引き起こされる災害はあるのか。
- ・自分達の町は安全と言えるのか。
- ・災害が起きたとき、自分はどんな行動をとらなければならないか。

防災士

昭和地区の全景

教科等において関連する資質・能力
（単元名）

国語科2B(1)ア
（みんなで新聞を作ろう）
算数科D(1)イ(ア)
（折れ線グラフ）
理科B(3)ア(ア)
（地面を流れる水のゆくえ）

○ 指導と評価の計画（全 55 時間）

次	学習活動	評 価			
		知	思	主	評価方法
一	課題設定 (1) ○防災士の方に話を聞き、災害、防災とは何かを知る。また、「大人を動かす防災リーダーになってほしい」と依頼をもらい課題に取り組んでいく。			①	行動観察 イメージマップ
	情報収集 (2) → 整理・分析 (3) ○災害について知りたい・調べたいことの情報収集し、みんなに伝えたいことを整理する。(・地震・津波・火山・大雨洪水・土砂災害・雷・竜巻・台風)	①			ロイロノート のカードの確認
	まとめ・表現 (1) → 振り返り (1) ○自分達の調べた災害をロイロノートで発表を行い、今までに学習してきた知識を基に、自分の命・みんなの命を守る行動を考える。		②		プレゼン 振り返りシート の確認 行動観察
	課題設定 (1) ○前時の学習を元に新たな課題を発見する。				行動観察
	情報収集 (2) → 整理・分析 (2) ○地域の安全・危険な箇所を知るために、フィールドワークを行い、地域めぐりで見付けたこと・知ったことから防災ハザードマップを作成する。		①		記述の確認 行動観察
	まとめ・表現 (1) → 振り返り (1) ○作成した地域ごとの防災ハザードマップの発表会を行い、活動を振り返る。	②			発表 行動観察
二	課題設定 (2) ○前時の学習を元に新たな課題を発見する。			①	記述の確認 行動観察
	情報収集 (8) → 整理・分析 (4) ○防災食、気象、日本豪雨災害のことなど防災に必要なことを教えてもらい、大人を動かす視点をもって整理・分析する。(栄養士、危機管理課、気象予報士、防災士、消防士)		①		記述の確認 行動観察
	振り返り (1) ○大人を動かすために自分達に何ができるか話し合い、説明する。(本時)		②		記述の分析 行動観察
三	課題設定 (1) ○家族や地域の人に伝える方法を考える。		①		記述の確認 行動観察
	情報収集 (7) → 整理・分析 (14) ○相手意識を明確にした上で、伝える内容を決め、発信する事柄を検討する。	②			行動観察 思考ツールの 分析
	まとめ・表現 (1) ○作成したDVDを家族、地域に配る。			①	行動観察
	振り返り (2) ○保護者にアンケートを行い検証することで、成果と課題を出し合い、次年度への新たな課題を見付ける。		②		記述の分析 行動観察

○ 指導の手立て

・ 「整理・分析」の学習場面では、自分達の地域に大切なことに気付かせるために、広島市安佐北区の今年の豪雨と西日本豪雨の被災資料を比較する学習活動を取り入れる。 **シンキング**

・ 自分の命・みんなの命を守るために自分に何ができるか考えるために、自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞いたり、学級全体にどう実践していくか問いかけて話したりする中で、共感的に理解し合うことができるつながる場を作る。 **ヒューマン**


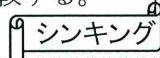
<児童生徒の発達をどのように支援するか>

・ 考えをもつにあたって、必要となる資料に着目できるよう、学習等で活用した資料は、その都度教室内に掲示しておく。

○ 本時の目標

これまでの学習で得た知識を基に、大人を動かすために自分達に何ができるか話し合い、説明することができる。

○ 本時の学習展開

	学習活動	指導上の留意事項 (◇) と評価規準 (※) (◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て)
課題の設定	1 問題の気付きからめあてを考える。	◇ 必要な情報に気付かせるために、総合の足あとにこれまでの学習を提示しておく。
	問1：昨日から大雨がふり続いていて、警戒レベル4が出ています。家族は、まだ大丈夫と言って、避難をするつもりはありません。あなたならどうしますか？	
整理・分析	【めあて】大人を動かすために自分達に何ができるか話し合い、説明しよう。	
	2 個人で考える。	◇ 自分の考えとその根拠を明確にさせるために、ワークシートに理由を書かせる。 ◇ 自宅での垂直避難ができないこと川の過去の氾濫記録から町内の避難所には逃げるできないことに気付かせるために、昭和地区防災ハザードマップを確認させる。 ◆ 自分の考えに自信をもたせるために相談・確認タイムを設ける。
	3 全体で交流する。	◇ どのような避難行動をとればよいか、他の児童の発言と比較しながら考えを述べるよう促す。 
		◇ 自分達の地域の大切なことに気付かせるために、安佐北区の今年の豪雨と西日本豪雨の被災資料を比較する。 
	4 今までの学習を振り返り、大人を動かすために自分達に何ができるか考える。	◇ 危険であることを大人に伝えるためにどんな情報を伝えたらよいか考えさせるために、これまでの学習を「総合の足あと」に掲示する。 ◇ 今まで学習をしてきたことを示しながら発言するよう指示する。 ※ これまでの学習で得た知識を基に、大人を動かすために自分達に何ができるか話し合い、説明している。(記述の分析・行動観察)
振り返り	5 本時を振り返り、次時以降の学習に向けて課題意識をもつ。	◇ 「学びのレシピ」に、話し合いを通して変容した自分を書くよう指示する。
	【振り返りの例】 大人を動かすためには、雨量・土砂災害の時の避難場所、過去の災害時の話、地域の危険な所や安全な所、災害の恐さを真剣に伝える。そして、自分の命・みんなの命が大切なことを伝えなければいけないと思った。	

<成果(○)と課題(●)>

- 地域の防災士の方と地域を歩き、危険な所・安全な所を教えてもらい、防災ハザードマップを作成したり、気象予報士の方に自然災害や雨量のことにについて、オンライン学習したりすることで、自然災害や防災について知ることができた。 【知識・技能】
- 防災士の方から「大人を動かす防災リーダーになってほしい。」と依頼を受け、課題をもつことによって、この課題を解決するために、全国各地の災害時の雨量を自分達で調べたり、表にまとめ比較したりすることで、自分の考えと関係付けながら筋道立てて説明することができた。 【思考力・判断力・表現力】
- 災害の恐ろしさや避難することの大切さを大人に伝えるために、防災ムービーを作成しようと考え、シナリオ作りや構成、どのようにしたら相手に伝わるか、仲間と協力し進んで学習に取り組むことができた。 【主体性・協働する力】
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の関係でゲストティーチャーに来てもらうことが難しく、単元の流れを変更しなければいけないことが多くあった。しかし、オンラインやできる範囲で協力して頂き、防災学習を進めることができた。 【知識・技能】
- 学年で話し合い活動をもっと仕組みたかったが、制限がかかっていたため、クラスのみでの学習になり、考えを共有することが難しかった。 【主体性・協働する力】

<学びのレシピ>

学習の見通しと学習評価を教師と児童生徒が共有する。

No	学びのレシピ	課題	土砂災害が起きる前にできる準備
1	学習計画		11月10日(水) 15:00-16:00
2	過去の災害を調べよう。		11月11日(木) 15:00-16:00
3	過去の災害を調べ、大人を動かすために必要な根拠を見つけよう。		11月12日(金) 15:00-16:00
4	過去の災害を調べ、大人を動かすために必要な根拠を見つけよう。		11月13日(土) 15:00-16:00
5	過去の災害を調べ、大人を動かすために必要な根拠を見つけよう。		11月14日(日) 15:00-16:00
6	過去の災害を調べ、大人を動かすために必要な根拠を見つけよう。		11月15日(月) 15:00-16:00
7	過去の災害を調べ、大人を動かすために必要な根拠を見つけよう。		11月16日(火) 15:00-16:00
8	過去の災害を調べ、大人を動かすために必要な根拠を見つけよう。		11月17日(水) 15:00-16:00
9	過去の災害を調べ、大人を動かすために必要な根拠を見つけよう。		11月18日(木) 15:00-16:00

過去の災害を調べ、大人を動かすために必要な根拠を見つけよう。
(思考力・判断力・表現力②)

<本時の振り返り>

根拠を母さんや父さんにみせてみないとダメだよ。根拠をまたみつけてきてね。さかさまにみてもいいよ。

大人を動かすための根拠をもっと探していきたい。
(主体性・協働する力①)

大人に言われても、しっかりせよとくして、声かけをします。おそくのことばにせ中をおかした。ここにあるからしっかりせよとくします。

ぼくらの言葉で、大人が動いてくれるよう、1時間の雨量や総量や過去の災害のことを真剣に伝えていこう。
(主体性・協働する力①)

<本時の板書>

め 大人を動かすために自分達に何ができるか話し合い説明しよう

問 昨日から大雨がふり続いていて警戒レベル4が出ています。家族は、「まだ大丈夫。」と言って、避難をするつもりはありません。あなたは、どんな行動をとりますか?

気 警戒レベル4 → 全員ひん

土砂がくる
広島県

全員ひんさせる。
根拠をみせる
土砂がきておもしろくない
250mm以上

年	雨量
2014年	77人
2021年	1人

砂防ダム 広島県
手渡してチラシを配る
個別に訪問

家族の言葉に背中を押された